



春曙抄

枕草紙ハ清少納言ノ筆也。ノ納言ハ清原元輔ノ筆也。あれども妙を司り。清少納言といへり。父ハ元輔也。母集ノ撰者利家ノ筆也。ひもじ。

清原氏系圖

日本紀撰者

天武天皇

舍人親王

貞代王

有雄

通雄

賜清原姓

海難

筑紫守

豊前守

内近允藏人所

雜色

頭忠

奉使下野守

元輔

肥後守

清少納言

山縣處の御子

主馬佐下、清說。清少納言。一条院乃室佐官乃多居。山室佐官。山中殿。白道隱。の後。ひとり定ふ。下作。山。某城の不。主馬佐下。主馬佐下。是也。出。某城の不。主馬佐下。主馬佐下。是也。出。某城の不。主馬佐下。主馬佐下。是也。出。

三象院乃長慶景令道隆公女
定子妹乃唐中
乃より恩賜山草紙御京令乃唐中
之
付属之事は之せ一車の分之付す。追以草紙之付す。此れが此
人之友之を勘カガへ仰カガる。一象院乃長德年中、長保元年
二年之付属之事之もあつた。そのうち事又之付す。彼皇宮
宮乃長保二年十二月十五日之がこれとせり。般景食ハ
三象院乃东官之て、おもつて之に付す。かくすまつて、此年
そぞりや主麻ノトキノ付属之事は之ハ二とせつを之のうり、おひきノばかノ
き之れと之事を之えよ。ハニとせつを之のうり、おひきノばかノ
主麻ノ付属之のうりと之事は之されば、さうは之が御松
まつりが主し之ある。御松ノ事を之御松ノ事を之セ
お不いげ甚ノ底ノ付属之事之ややんノて有ム

新古今集ノえ輔ノひノトキノ付属之の家乃ノうふ
清ノ納ノトキノ付属之は雪足ノトキノ付属之の事
トキノ付属之は雪足ノトキノ付属之の事
トキノ付属之は雪足ノトキノ付属之の事
赤深黙門
家集
詠ノあく雪ノ里ノ甚ノむきノづりノづれノの垣ノあく
又古今集ノ百人一首新古今集ノ清ノ納ノトキノ付属之は四玉乃ノうふ
乃塗云國白立ノ定子ノ付属之と恩賜山草紙一象院乃長慶景令乃唐
付属之事之のうりと之事は之もあつた。中園白敷ノ上
上薦ノ次ノよノトキノ付属之事之もあつた。中園白敷ノ上
ぎノ付属之事之もあつた。中園白敷ノ上
かれとせり。付属之事之もあつた。中園白敷ノ上
園白敷ノ上東門院ノ也ノあつて、中宮ノうふせり
上

あぐらにうへ伊周の際事へあくまを憲ノアリあり
きぬえい女と男子とあくまをすひされどりどり、
れをせむは、のくの胸景会とくらへまくへてすひた
被ひる人へ附をうあくまが成れりやうもあくま
まへはが納ましらるあれまくすりまく宣まつる
よひまくひくまくひくまくひくまくひくまくひく
まくひくまくひくまくひくまくひくまくひくまく
我れせよわくわくわくわくわくわくわくわく
或說る活が納言誓願ちまかへ出家へ帝へ慶ち
えをうよりかへせせせせせせせせせせせせ
孤教う又ゆは代りありて一旦ハからざれりよ。み経事の
あひそらうるま。メテ一人乃まうらへゆるや

題号と枕草紙とつひひは枕草紙アリハシマム所
いさゆあぐ枕紙をがくとくとくとくとくとくとく
あれバ枕草紙とくとくとくとくとくとくとくとく
かまく内乃ゆどこのまくまくじをまくまくじをまく
うへぬあぐヘ史記とくとくとくとくとくとくとく
まくまくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
あくまくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
あくまくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
あくまくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
草紙カタとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

さうせんはひきとくや。双紙ハナシをもぐるもぐる
わざとせば、じまきと首をもぐりとぞ思ふとよし
いさりしのえ辞やどあたてゆかへ我まほむ空穴といひ
き一通民物をうねび構せられし。庶民花苗紙とよづけ
ゆくや。吉田乃兼好からしきはれく。草紙もじめ紙と廣
まくせよ。わくわく。こままたあや。内乃優多か乃幽玄
うさんをつまうよ。せあはよ。

い草紙是本をもぐり。或ハ二用。或三用。或四用。一
く。古今文集は撰無源氏物語等は定家の御草紙
をもぐせ。定のよし。小松草紙。下りてはひがみの店等と
いふ。必ず。承應二年乃其尾列より一本と得たり。上二用
をもす。紙をもぐく。既に中古乃不持あらむ。もく文意を

やりゆく。西ノイ朱点をもぐく。且又人をうけ官事あど
きもれり。奥ノニキ本をも通かきもぐれゆ。以本
をもすを合せく。用於せり。本をもれゆ。を奥也。云
往牛研持之恩本紛失。季久更脩出。一函之本。今書寫
之。依無證本不敢不審。但管見之所及。勘定。回記等註
付。時代。季月等。謬案。款

安貞二年三月

老々及恩翁在判

文明し未之仲夏。廣橋亞槐送實相院准。右本。下之本。末
兩用見示曰。余書字。貞希也。炭。今井。獲止馳。天亮。彼
旧本不及切句。此新写讀而欲容易故此。接之。次如朱

點畢

正三位行權大納言藤原朝臣數行

此卷及馬糞誰人ノリヤ。勧めくはれより。朱豆ハ數枚ア
ミアヘ紙。奥去乃處。本と角竹人等。とがあつや。又
又一本上下二層。厚本。とて。官内。清風殿。乃奥也。あり。漆湯
と。一紙。が。ひよの。は。乃。本。ふ。た。る。か。ま。次。れ。印。の。次
岸。あ。と。大き。に。是。也。又。清。が。納。ま。乃。舟。よ。一。船。と。
つ。ね。す。ば。を。も。先。を。き。乃。用。い。ま。す。墨。乃。奥。さ。る。と。そ
も。と。此。卷。及。馬。糞。教。も。せ。られ。奥。也。の。本。代。め。り。し。と
古人。乃。身。う。沙。經。の。り。や。げ。後。捨。遺。千。載。集。新。古。今
續。古今。毛。葉。集。等。も。い。や。一。法。が。納。ま。乃。舟。洞。古。や。う。も
皆。山。本。代。と。又。て。あ。が。山。本。院。乃。禁。祕。行。八。室。持
坐。不。は。う。納。ま。が。就。う。あ。う。と。と。も。せ。う。事。ど。り。又。幕。後
乃。役。同。お。よ。者。被。差。乃。雪。れ。ま。わ。り。義。ぬ。は。師。が。往。撫。掌
ノ。う。れ。る。參。本。本。う。ど。か。な。く。ほ。じ。紙。川。い。手。を。も。ら。し
ら。れ。る。う。あ。と。一。又。本。乃。ご。じ。い。も。が。一。是。卷。あ。り。と
や。く。か。り。ち。あ。り。と。ワ。と。も。本。と。又。合。せ。く。中。う。う。き
を。見。し。竹。

此草紙。は中古。は。ま。經。乃。抄。十。用。あ。う。と。中。竹。へ。竹。ね。と。宣。も。
凡。竹。す。只。多。年。此草紙。を。よ。く。く。ゆ。く。金。も。の。事。あ。れ。ど
金。も。を。も。主。ね。く。か。の。く。く。を。き。け。一。禁。草。紙。本。い。も。と
延。喜。寺。西。宮。紙。小。山。紙。一。比。羅。子。ト。わ。段。乃。出。あ。ざ。と。事。の
うち。あ。れ。ど。此。草。紙。本。紙。祕。行。雲。圖。也。二。系。大。間。後。五。代。年。中
行。本。代。奇。合。代。紙。一。象。經。閣。法。本。乃。不。草。根。通。も。と。か。ん。ぐ。ぐ
宮。位。乃。く。り。ハ。宮。位。合。職。原。折。百。審。訓。要。お。あ。ど。と。用。い。家
西。ハ。頃。和。名。集。拾。叢。わ。り。勘。名。不。ハ。尋。根。坐。も。あ。う。と。つ。く。せ
此。草。紙。本。う。く。り。太。せ。さ。せ。る。故。不。八。度。唐。物。と。り。分。て

用やり。彼老及愚鷦乃動物。うらゝせり。人。ノ。官。考。家。圖。傳。あ。ど。へ。る。以。補。任。大。原。圖。案。不。西。大。後。作者。部。類。等。の。よ。そ。が。あ。く。り。」。舟。ハ。万。葉。集。。東。六。恨。。三。代。無。。わ。く。一。代。」。乃。撰。集。家。。集。等。か。勧。。神。社。。自。本。紀。二。代。寶。錄。。唐。真。云。あ。ど。セ。シ。ニ。テ。ト。部。乃。家。說。等。を。」。す。」。佛。の。う。べ。を。經。を。勘。。古。語。ハ。漢。カ。家。乃。諸。書。あ。す。り。ん。ぐ。。古。詩。ハ。文。選。文。集。の。こ。ひ。菅。家。文。革。本。朝。文。粹。朗。説。集。あ。ど。用。よ。う。ど。我。翁。れ。詩。え。う。ハ。教。つ。き。と。闇。事。や。り。。ば。多。詩。集。教。え。い。ふ。を。む。ね。ど。。衣。服。乃。き。く。ハ。筋。折。椎。蔓。葉。葉。あ。く。河。海。れ。花。を。鍾。附。あ。ど。の。類。や。す。く。朝。り。や。ハ。源。氏。伊。勢。地。図。乃。諸。物。を。波。」。。先。是。犬。都。御。房。被。名。宿。旅。遣。交。今。著。兩。次。説。ひ。ち。う。お。等。め。古。經。。ま。か。あ。年。々。」。。古。の。尋。古。方。乃。す。す。さ。の。双。絶。乃。は。す。と。す。き。を。身。し。詩。」。偏。か。門。入。乃。事。多。見。て。

春。ハ。あ。け。の。や。う。く。向。　春。ハ。あ。け。が。の。や。う。く。向。う。ゆ。　曙。ア。キ。胸。向。
あ。の。晴。す。の。あ。き。あ。　山。ぎ。そ。す。す。う。あ。う。り。あ。き。じ。し。き。き。ご。ち
こ。う。余。雅。春。晝。青。陽。　も。の。雪。乃。あ。く。う。く。も。の。び。き。あ。る。え。い
方。物。葉。生。も。の。よ。う。の。　よ。月。の。う。す。む。う。き。り。や。く。と。も。を
抱。す。と。う。か。め。古。經。。ま。か。あ。年。々。」。。古。の。尋。古。方。乃。す。す。さ。の
波。す。か。う。は。登。梯。り。　わ。く。と。う。じ。ち。が。い。る。あ。す。の。す。み。
春。ハ。暁。を。愛。す。と。す。　わ。く。と。う。じ。ち。が。い。る。あ。す。の。す。み。
お。な。言。乃。の。あ。う。れ。と。　か。う。秋。ハ。夕。づ。れ。夕。月。も。も。や。う。よ。う
お。な。言。乃。の。あ。う。れ。と。　あ。く。と。う。じ。ち。が。い。る。あ。す。の。す。み。
哥。金。う。く。も。春。の。曙。　わ。く。と。う。じ。ち。が。い。る。あ。す。の。す。み。
う。う。う。経。を。せ。れ。竹。　あ。く。と。う。じ。ち。が。い。る。あ。す。の。す。み。
の。う。晴。川。百。音。高。音。　あ。く。と。う。じ。ち。が。い。る。あ。す。の。す。み。
歌。合。う。く。も。春。の。曙。　あ。く。と。う。じ。ち。が。い。る。あ。す。の。す。み。
日。歌。う。う。く。も。春。の。曙。　あ。く。と。う。じ。ち。が。い。る。あ。す。の。す。み。
玄。ハ。若。晝。ハ。暑。氣。勞。　あ。く。と。う。じ。ち。が。い。る。あ。す。の。す。み。
堪。う。う。く。も。春。の。曙。　あ。く。と。う。じ。ち。が。い。る。あ。す。の。す。み。

をも重んじぬ。月の事。月の事。月の事。

ハツカタモアリ。アミタニ。アミタニ。アミタニ。

ノ

秋分され朗誦す。林曉
乃經より初秋終事。

ノ

秋分され朗誦す。林曉

ノ

秋分され朗誦す。林曉

ノ

秋分され朗誦す。林曉

ノ

秋分され朗誦す。林曉

ノ

秋分され朗誦す。林曉
乃經より初秋終事。

ノ

秋分され朗誦す。林曉

ノ

秋分され朗誦す。林曉

ノ

秋分され朗誦す。林曉

ノ

秋分され朗誦す。林曉

ノ

秋分され朗誦す。林曉
乃經より初秋終事。

ノ

秋分され朗誦す。林曉

ノ

秋分され朗誦す。林曉

ノ

秋分され朗誦す。林曉

ノ

秋分され朗誦す。林曉

ノ

秋分され朗誦す。林曉
乃經より初秋終事。

ノ

秋分され朗誦す。林曉

ノ

秋分され朗誦す。林曉

ノ

秋分され朗誦す。林曉

ノ

秋分され朗誦す。林曉

ノ

秋分され朗誦す。林曉
乃經より初秋終事。

ノ

秋分され朗誦す。林曉

ノ

秋分され朗誦す。林曉

ノ

秋分され朗誦す。林曉

ノ

秋分され朗誦す。林曉

ノ

秋分され朗誦す。林曉
乃經より初秋終事。

ノ

秋分され朗誦す。林曉

ノ

秋分され朗誦す。林曉

ノ

秋分され朗誦す。林曉

ノ

秋分され朗誦す。林曉

ノ

くねゆ
めらうめやと角ゆる
くえれぬしよ葉の風
ゆきゆゑをあぢたる
破れりゆる故ゆ
白てんとてある
とひどく年中初年
奇合は三葉園に於て
七月生すれせらくもす
ひるが陽乃けず猶未き
えまれたことれりて
宵七百もするをまへ
祥中の形氣をあ年
災を除くことを又は
トヤ愚東を才節薄井
皇世記坐せりとくにれ
處事式には算也小萬
河海が三之寛仁天官宝龜
六年十月天官御楊
梅院安殿設裏於五位堂
己而内既裏進青御馬
共ア首進五位已上裝馬
是青弓始也
中乃唐門乃と年も待賄門を守の門也と号もと捨蓋すあり。宇の居門は内裏の

河海が三之寛仁天官宝龜
六年十月天官御楊
梅院安殿設裏於五位堂
己而内既裏進青御馬
共ア首進五位已上裝馬

是青弓始也

中乃唐門乃と年も

待賄門を守の門也と号もと捨蓋すあり。宇の居門は内裏の

東乃唐門を守の門也と号もと捨蓋すあり。宇の居門は内裏の
白馬乃陣ハ建れ門をつ。左を陣ハ春華門にば汝第二。右を陣右旨馬陣
キド自馬乃せもの不す。ア
門乃ちきも引りくも不すて車ゆもくも背くもいあひる。ア
梁塵周集物云一条禪園序後世延喜彈正武云凡内官好三位堂聽用象牙櫛
左至乃陣 建春門を下す。右至乃陣府ハ官城の諸門をもむを。壬午年正月
門ハ左走ちりく宜秋門、れる惠の陣。左方門ハ神祇門也。右方門ハ太常
御上人道遙院也。後三位三位五位六位七位八位九位十位
門乃陣。陣とハ主友人の居る所を以て景致を能く人を殺上人とす。
御上人道遙院也。主友人の居る所を以て景致を能く人を殺上人とす。
主友人道遙院也。主友人の居る所を以て景致を能く人を殺上人とす。
主友人道遙院也。主友人の居る所を以て景致を能く人を殺上人とす。
主友人道遙院也。主友人の居る所を以て景致を能く人を殺上人とす。
主友人道遙院也。主友人の居る所を以て景致を能く人を殺上人とす。
主友人道遙院也。主友人の居る所を以て景致を能く人を殺上人とす。

卷之三

三

八日人ニヨウヘビイツシ
八日小ハ女叙位。給^{二ヨジョイ}茎^{キラコロ}祿^{ロク}
ミモガカリ。ミモガシヒ
モリタマリヤ。女叙位ハ女

本ほんひも
八月人ぐよろこび等そぞくどよの
をまつりよわふかくらむかへ

乃位階を叙せられ
雪圖抄ノリ又ノリ
西宮抄江原第ニ。秀全
月晴則所生之物育。陰
參

と年中行事の活字もあり。また古文圖書
タクワウトヨトハ女王御子ハ女王アリ祿をナニ事比由ニ奉根序ナリ也
本ノイシヒナニトハ荊楚當時記云セ日ヲレニスヨリ
タルハ既矣。八月九時アモト狂ひてみ穀成糲を引ムヤ
則災也。而ハ八月九時アモト狂ひてみ穀成糲を引ムヤ
小吉アキト耕をカムトキテナリテ

十五月とちうわれせくま
餅粥、節供進奉至る事無
延喜式主水式云正月十五日
供御七種粥料 宇宮米一
斗五升粟アハ黍子キビ蕎子カモ蕷
子胡麻子アハギ小豆各五升 塩
四升シヨウ又中官鹹シモモカ
えり事文類聚ムカヒ正月十五日作膏カワラ
烛宝典カツタケン正月十五日作膏カワラ
粥カス祠カミ門戸カマドあをゝ荆楚
累時記カクジある根通毛有
かゆのあひゆカヒヌ

まくもくとみゆき
のうじゆのうじゆ
をひまゆ
こちりり 畏のあられ
ぬきぬきも林草のうみき
雪と冬室物の本より
打拂てれめらはり
隣月乃り 賢古乃隣月
也江岸小川友隣月九
日姑謡之由見清原記小出
竹等まく。福徳院入ひ
月十日よりナラ木を打拂
召乃隣月ヒトモの家
をひねと往けましや
まとハ後家の事。因念を
あそびや。がまうてを
草木をもぐくにて
ひやかねづけやまや
狂言耳には家事小意を
圖ハ雪園か引か
あらわす。能守ひ
極風をもむくに
ト所せし奉根深家

つるをのうひすゞ
うつふをが
のうじゆのうじゆ
をひまゆ
こちりり 畏のあられ
れてや。こちりり。隣月乃りがどさる
れ葉月乃り
16玉よりすとやひともふひもふ
小まくしがまくと
少まくしがまくと
四位三位わや
少まくしがまくと
月十日よりナラ木を打拂
召乃隣月ヒトモの家
をひねと往けましや
まとハ後家の事。因念を
あそびや。がまうてを
草木をもぐくにて
ひやかねづけやまや
狂言耳には家事小意を
圖ハ雪園か引か
あらわす。能守ひ
極風をもむくに
ト所せし奉根深家

名都國歌名國賀。秋滿更任住府。返上あづはヤヌのちく移をとくすまには第ニあ
四位八位りやうせりげあるハ。もあすが四位五位よゆ。あきくとハ復ふをとくすま
或隨其望應其撰古今之例也。

をうめり一きぐと。我身乃めあり。方けりトもひへては度だ隣月よりれぬやふ
ことあひま多し。それとく。もきぬきをもくのまく人のよねをて笑ひ

三月三日

杜子美詩三月三日天氣

新長安水邊多艤人

朗詠云桃夜雨淵溫曾

波之眼新嬌曉月緩吹不

言之口先咲紀納言

事文類聚云桃花生玉洞

柳葉暗金溝采庚肩吾

まゆくこちりり。柳乃やんく。ぐく。あひててくにあやうながく。よみ
うでうて。兼輔集云月序の眉にこむる事。ばまたくあがく。まく

ばく。新木哉集すりわざ

花あよすすは撰

ぐれかたうとうと拂

たうまさせたううい

よくりかく

春暉

一絆度

極真衣面白裏赤絆
と直衣ひひからひ
こひう。たゞこ白きそだ
りちやと角ゆ。或は平絆
東平絆し。西もる桃絆

紫絆す。あ

ひづくうきとく

桃花葉葉云一枝枝及出

桂有憐之時畧之。直衣

草笠着也。ニこれ直衣

うじ乃ひひふづく

うり方。うなびの

度形乃手し。臂の

内乃目。勃はひひ

次第小あ延喜云大

政宣云凡賀茂二社

四月中西祭并内親

血社史人尤右史生客

校諸事。山城国司類

録。祭日申官差勅使

金幣并有走馬。事
ひうちひせん。ゐるもふ
とてふさん。もとをそ
あをくもと。ある。

一枝枝行云青柳葉

表青丹裏青。二世郎ハ

赤絆と。もと花に厚

かづひのつまみ。片

河海わら絹檜也。原

野分坐に。わらひのく

ゆよひひきうけて。長
さくよくき。ひりて。長
れいわうね。けし。

木あすすと。あすす
木あすすと。あすす
紺もくと。紺もくと

けいと。けいと。

は葉紙の奥もすき
げへと。まくされど
背れぬと。和名集の

ひづくうきとく
桃花葉葉云一枝枝及出
桂有憐之時畧之。直衣
草笠着也。ニこれ直衣
うじ乃ひひふづく
うり方。うなびの
度形乃手し。臂の
内乃目。勃はひひ
次第小あ延喜云大
政宣云凡賀茂二社
四月中西祭并内親
血社史人尤右史生客
校諸事。山城国司類
録。祭日申官差勅使

金幣并有走馬。事
ひうちひせん。ゐるもふ
とてふさん。もとをそ
あをくもと。ある。

一枝枝行云青柳葉

表青丹裏青。二世郎ハ

赤絆と。もと花に厚

かづひのつまみ。片

河海わら絹檜也。原

野分坐に。わらひのく

ゆよひひきうけて。長
さくよくき。ひりて。長
れいわうね。けし。

木あすすと。あすす
木あすすと。あすす
紺もくと。紺もくと

けいと。けいと。

は葉紙の奥もすき
げへと。まくされど
背れぬと。和名集の

ひづくうきとく
桃花葉葉云一枝枝及出
桂有憐之時畧之。直衣
草笠着也。ニこれ直衣
うじ乃ひひふづく
うり方。うなびの
度形乃手し。臂の
内乃目。勃はひひ
次第小あ延喜云大
政宣云凡賀茂二社
四月中西祭并内親
血社史人尤右史生客
校諸事。山城国司類
録。祭日申官差勅使

金幣并有走馬。事
ひうちひせん。ゐるもふ
とてふさん。もとをそ
あをくもと。ある。

一枝枝行云青柳葉

表青丹裏青。二世郎ハ

赤絆と。もと花に厚

かづひのつまみ。片

河海わら絹檜也。原

野分坐に。わらひのく

ゆよひひきうけて。長
さくよくき。ひりて。長
れいわうね。けし。

木あすすと。あすす
木あすすと。あすす
紺もくと。紺もくと

けいと。けいと。

は葉紙の奥もすき
げへと。まくされど
背れぬと。和名集の

杳々あれどもはるは
さうきくそつれ
せんれあくまじ
らやうとふり
長者りや。東すひ長者
うどあり。彼童女が裝
本をくわく練む
まくあし
わりまくらんがれ
に次第賀民の路頭の次第ア。女車六両童女在此中ニモ。娘の童女もよ
さみや。日本いまだとあり。まほ日失礼。もとやとよもと
ももきつづらい。彼童女もまほ供もくや。まほくや。

ことくあらわ 異事

も車乃がりくわ
は師の行旅人の舟と
往くべし宿便
詮ては必ず常の経
を演説す。そればと
て三移石院の事
かと女の方。哥も
まも女の音ハトおほひ
男めよひやくちくじき
ばとまほくわくわく

乃まもくくくくくわく
は師乃とくわく
御よハカクとモ。わやりとく
わりん子とは師ノ
とくわくわく。まもハトみのとく
わざと。ま乃くわく乃やうばく

そり上萬ノ物と云ひ
あや。佐佐木に大軍
とくぶよ少々げくと
りと。とてあくま
あけとくは向こゆ
もやまとある仰ゆる
やりん子をやりに
そり異車をくわ
りふけで。とてあく
をきゆ。とてあく
は師よりすへ。秀樹の車
きれいに。組や。それ車をほ
ほく交へらわく。あ
のまわく。只うひる
えり。かくや。あくま
とく。とく。とく。とく。
一子生れ。九族天
津小普
撫入。おゆゆく。わくと
後人の破戒無慙の心
ハ本の心のうに。とく。
いわく。寝る。

靈氣のわき
調伏

うすも、とく。されば、ごじてうちよ
き。わづく。どのまくとく。とく。

春陽

數すすうとひと次の
羽林されも安らぎすと
ひよりけでそよし

てあせりいとゆめんと。これハモトノ
シムナリいとややとげき

モナリ河東がる慶學
ハ金峯山宣化天皇の三年より金峯山より
乃まげりよ日移進

すれ形え本家附解を熊野山に。一派小速毛
くすれ

ノアトサカノラ之男。伊勢丹賀軍を熊野とおどく。又ち熊野権現代傳殿の本
地ハあらじ。あ不羅院イサム寺御意。アモニ子ハ施雲院大士也。号モテ日本
第一大靈験熊野三處権現とり。能勝大引門もをばみ御意と
やらぬ山あく

ゆれぬ山も。原氏海舟車にてづく者をバヨセントと
ゆれぬ山も。あし

れ宮山童子の子々を教へ。又いとひを年り。し
てこゝうせりいとややと人を。傍人乃事のりは而乃よハ世人ふととさへれてあ
せらぐ人のやうともあくがゆいせられて。くにげあくと。うちとくの
これハレル車しゆやくは。是乃からまふ和て。とものとつと。上京車す
きり。あまやひあざては師のたほどりされへ。向よ安げひと。奉瀬瀬思れるもひと
大進ありとまづく

大進生昌

老父恩翁の

四足乃馬

大進ありとまづく

家

四足乃馬

大進生昌

老父恩翁の

四足乃馬

自職曹司行勝平生昌子

時中官前大進云前但馬守

四足乃馬

守後正四位下幡摩守

経文章生贈三位弘樹

四足乃馬

男中納言惟仲弟

中官大夫中官良大進サ

四足乃馬

進もとさきとまづくの

車ととこもと友人

四足乃馬

やノ出まきよ

車ととこもと友人

四足乃馬

皇后宮定子の母

中國白道隆乃乃江と

四足乃馬

一重俊乃后宮敦康親王

一品官女とまづくの母

四足乃馬

法か病とまづく。生昌

が家へり移乃室勘也を

四足乃馬

ちんや乃江ねばくさんや

禁車もとまづく。陣舎の

四足乃馬

者直人と居ねばくさんや

ことひととやハ助を

四足乃馬

びらうづの車

拵華葉葉云

四足乃馬

赤色簾錦緑蘿芳涼

ト幕縫綉端

四足乃馬

用青色簾

青末

四足乃馬

漢下簾金銅金物之轎
至西宮記云。檢御毛空。
皇以下。品位以上通用。云
これ。乃は車。もとて
は。納。もとて。是。也。而
は。ア。ア。ア。ア。ア。
車。も。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。

シテ。ア。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。

シテ。ア。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。

シテ。ア。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。
ア。ア。ア。ア。ア。

昌平ハ天子の御内膳乃
名内膳を供する所にて
朝食御内膳乃南
アリ。行禁御内膳乃
差人トたク 勘物差源忠
長保一年正月廿日昌人
陸奥守從四位下滿忠男
あつよりて之をさり
内裏の犬を殺す差入
逃亡トす。あつとも
禁秘物ト太狩差人
御下駄所衆灌口衆灌口
帶弓箭備所ト射大所
衆入縁下狩出下畠
の下にやまと禁秘物云々^ト
着布衣且暮候御處所
勅使等公役防作せ候
職原持ト堪武勇之輩
可補ト貪世人ミく
乃矣 誰ともトど直
奥ノ引出トる事

ありてウツカシモシまか令ぬもさト
モテメテトウツカシモシまか令ぬもさト
畏也馬食ぬもされよトテ御處
せられバガこやうて是がみ出ト
いとめトウツカシモシまか令ぬもさト
大時トある首尾トさりばらうの犬をもなむ
御下駄所衆灌口衆灌口
の下にやまと禁秘物云々^ト
着布衣且暮候御處所
勅使等公役防作せ候
職原持ト堪武勇之輩
可補ト貪世人ミく
ひまつトかくトあれト
をせきせ。ひだらトけさせまよ
つるを。三月三日トは祭ト
をせきせ。ひだらトけさせまよ
くか行せトてあつとトせきト
かりトめアソントハカリトいかけトんや
トあわねト。かトのめトめりハカラトすし
寝トサウシトまトき
ひまつトかくトあれト
ひまつトかくトあれト
ひまつトかくトあれト

あす乃犬の 番兵
あく乃犬が止ムか
あるまくムか
うげり犬トも 番兵
犬を立ヒヌ
ミシマトと やトき
よのこやトと 乃トな
すすやトすきこや
やトよもトも 横
屋トすまそトあわ
え夢トち三店風今トと
かうそく 番兵
うやくトくトくト
ひきすトとトとト
タつトとトとト

ありれすもり 痘瘍をす
を畠ちてともひつまほ
とすふをこゑをとく
ひじゆけし 徒をきる
やるひめやと 徒をきる
うかよがやうたひの聲を
すと

右近うだくをす。
あくふな麁脚をすと
人をくし。第衣腰を盡
脚と乃別刀事。中ま
備子内秋玉を生時出
湯浴の内あくふな
本をてた直内ゆうき
アリ。同妻。敷席
おまされうす。万ふかゆ
どふか直肉の例の事
とあくふせくとくと
そく侍り
又まきみを。日はよふ
さうす御れまへ。無が病を
かわふ。とあくふと
おまされうす

酒をくれとくとく
日終をくまくとくとく
豆とくとくとくとく
あくとくとくとくとく
古酒桶ぬいとくとくとく
あり。中井處うとくとく
刀をうとくとくとくとく
おまされうすとくとく
ほくとくとくとくとくとく
ほんかうとくとくとくとく
てすまれはとくとく

大乃ヨビ。けあふがわらうき。あふとけを
ありれすもり 痘瘍をす
あふれすもり。ゆるひねやととれどふとく
あどりすと。あきまやうとよ。とくとくとく
やるひめやと 徒をきる
うかよがやうたひの聲を
すと
大乃ヨビ。けあふがわらうき。あふとけを
ありれすもり 痘瘍をす
あふれすもり。ゆるひねやととれどふとく
あどりすと。あきまやうとよ。とくとくとく
やるひめやと 徒をきる
うかよがやうたひの聲を
すと

大乃ヨビ。けあふがわらうき。あふとけを
ありれすもり 痘瘍をす
あふれすもり。ゆるひねやととれどふとく
あどりすと。あきまやうとよ。とくとくとく
やるひめやと 徒をきる
うかよがやうたひの聲を
すと

大乃ヨビ。けあふがわらうき。あふとけを
ありれすもり 痘瘍をす
あふれすもり。ゆるひねやととれどふとく
あどりすと。あきまやうとよ。とくとくとく
やるひめやと 徒をきる
うかよがやうたひの聲を
すと

おほくあれあひし
宿三ベルセノシトス
トジシシテシムアカナ
シハカカマタエドホ
モトミシリハモ一旦將
ミシクセキヒトシ

あれども

まうありされよハシレアリびとある
アトリとあられよそがうよとるより
アカムキナカウカトコロ
アカムキナカウカトコロ
アカムキナカウカトコロ

大キムシヨシナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
シトクシトクナムアキ
シトクシトクナムアキ
シトクシトクナムアキ
シトクシトクナムアキ

ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ

サア地調合せまきをと
大乃時ヒツマニイ合せまきをと

ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ

スモノハ臺盤所_{タハシ}書

ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ

禁秘おえ臺盤所三間

ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ

東倚子其南共居簡翁

ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ

卓櫈朱漆出下畠

ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ

脚踏張籠

ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ

腰掛木也

ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ

腰勘事也

ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ

人坐も身附て坐も身附て

ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ
ナラタクシトクナムアキ

名をほきりんことひる。あつよう乃
かつうそく開木勘合。ちくわよひもとへ乃開了かまつことかくさん
か出てお宣とて出立。お前はれもく身をもく
えんがちづれうき骨。あそそく開木勘合。
よふううれすら。あそそく開木勘合。
あそそくの開木勘合。あそそくの開木勘合。
あそそくの開木勘合。あそそくの開木勘合。
六位が人青色の被する。や和まもとへ越巻の組
や天子の裳なりを基入は是もと職原物。六位職事又職禁色至極膳者
着越巻。道中下御服。後也晴時雖下膳。着之く御車とし奉りて。
あそそく稻開たわ。海も。手謝馬舟復。木勘合御座の月日あや
ちうい近江の傳。余吾も。餘伴代布施の
うみわく。わゆも。あうちよきのうも。かくくらのうも
あうすみほも。もくもくわくうも。りせ乃うも
うすれほ。恋を須者。ゆゑにらし。余吾も。余吾も
ふくちゆうふくと。うくも。うくも。うくも。うくも
うすれほ。安樂三帝王。所葬島陵。帝代墓。
延喜式。一諸陵祭小遠。陵遊陵。あく候。じげ
名。え。ど。八千。もの。百舌鳥野乃陵。薙より。ば百舌鳥。うちひの訓。はれひ若
が。く。く。乃。延喜式治部。柏原陵。平安宮。御宇。桓武天皇。本山城。御記。伊郡。下唇
ありの。く。そ。も。延喜式。う。と。も。う。ありの。く。の。は。陵。ア。ト。も。天寧寺
内山神の。廣。ア。ヤ

乃のうのうとせぬ
様唐衣よりてゆう
まじと一条経闇のゆゑ
ありよねもへれ
うきよきよきよく肩の
ゆと便うねぐらう
うちやすづかざりう
うちやすづかざりう
小半薦
書御座を常ニひまつねとつて候る内す
やど。月乃かゆはづめにかくひよひ。あ
はわりあと一經返
こうとれんともと
一ゆき
きよまの
袖口あよこ小室郭ゆ
とすれトわちうけ
胡曹村こくし押山車
落おち
是定例也是官也
所也ふち敷時押出
不妻サ妻ア裏ア要月五
節之時押出林岸出
妻ア裏ア要月討也
落おち
奏タケ翁シテのゆトトトト
も。こうしゆづとれよ女アす。さう
うち。こねども。前アうわぎへれ
あがみよねども。前アうわぎへれ
うちと便うねぐらう
うちやすづかざりう
うちやすづかざりう
小半薦
書御座を常ニひまつねとつて候る内す
やど。月乃かゆはづめにかくひよひ。あ
はわりあと一經返
こうとれんともと
一ゆき
きよまの
袖口あよこ小室郭ゆ
とすれトわちうけ
胡曹村こくし押山車
落おち
是定例也是官也
所也ふち敷時押出
不妻サ妻ア裏ア要月五
節之時押出林岸出
妻ア裏ア要月討也
落おち

いせんはうまうるの
身のまかせすひが
を脇乃うて隣脇
乃せうとすゞして
脇をあんうだわくえ
そでやうじよ
たゞもくわくせうとお
を上の階根とみ
中の出でて脇を
禁秘のよき後經
本路遷本所とある。是
くとくにのこゑと
はく乃墨すふはむ
あて六月をあけて
そ辞をつむるも
わざとをきしもも
はしそ辞をなべ
をあすせりあり
とまうせりゆま
すも同ををめし
きやめつてとお
をひとひづるや
ゆひめでとせり
あふのむら。
すらやせり今
ハ其へど嘗てけりよきと
左今序はああ入候
さすをくとあれハ童
もとく母うれはるの
車うりけすとされ
と大納ち歎がせりと
上うの肩内中に上萬の
すまは生きてほづふ
とまくとせりと
げ寄りの個室を留
乃居の店を小居うちよ
保れたをさせうる
と見てよもとわ思
たるうけししめう
をたれぬと候ひて
とくまくと今度を若
勢の遙乃出候をす
もみがてせりとまく
うとよの信をあく
おもへとすとまく
うをかくとまく
おもへとくとまく

いせんはうまうるの
身のまかせすひが
を脇乃うて隣脇
乃せうとすゞして
脇をあんうだわくえ
そでやうじよ
たゞもくわくせうとお
を上の階根とみ
中の出でて脇を
禁秘のよき後經
本路遷本所とある。是
くとくにのこゑと
はく乃墨すふはむ
あて六月をあけて
そ辞をつむるも
わざとをきしもも
はしそ辞をなべ
をあすせりあり
とまうせりゆま
すも同ををめし
きやめつてとお
をひとひづるや
ゆひめでとせり
あふのむら。
すらやせり今
ハ其へど嘗てけりよきと
左今序はああ入候
さすをくとあれハ童
もとく母うれはるの
車うりけすとされ
と大納ち歎がせりと
上うの肩内中に上萬の
すまは生きてほづふ
とまくとせりと
げ寄りの個室を留
乃居の店を小居うちよ
保れたをさせうる
と見てよもとわ思
たるうけししめう
をたれぬと候ひて
とくまくと今度を若
勢の遙乃出候をす
もみがてせりとまく
うとよの信をあく
おもへとくとまく
おもへとくとまく

中古も大へうあきへ
わざが中れり。左今ハく
ひがぬまく。まのゆき
村上の臣。六十二代天曆
乃帝代。す。延喜帝
官總。す。日宣。ひ。ひを
や。康保五年五月廿五
日。ク。を。う。し。六月
四日。か。村。山。陵。寺。華
宮。し。や。村。山。陵。寺。と。
せん。よ。ぞ。え
せん。よ。ぞ。え
宣。耀。殿。女。御。芳。子。美。善。
め。第。う。あ。そ。う。り。
小。一。衆。た。ち。居。師。尹。公。の。内
事。し。貞。信。公。ハ。五。男。母
源。頃。少。寛。平。乃。徳。し。す。め
さ。ん。の。ゆ。と。琴。奏。七。絃。
河。曲。琴。酒。農。作。也。く。
元。五。絃。宮。廣。角。徵。羽。是
や。加。文。武。絃。合。七。絃。琴。擴。
云。長。三。尺。六。寸。大。分。象。三。

村上天皇の御召で
きこく。め。と。う。せ。タ。ひ。て。清。め。つ。て。あ。う。
多。の。月。大。今。を。か。く。く。も。て。わ。く。く。せ
禁。私。物。御。物。忌。之。時。
物。不。出。御。他。殿。舍。中。諸
事。於。簾。中。有。之。ミ
又。云。以。御。冠。纓。御。放。本。鳥。
指。御。冠。纓。御。放。本。鳥。
時。付。左。御。袖。畫。紙。鳥。蠶。
國。の。桃。桺。よ。佐。鬼。神。の。鬼。
け。鬼。神。の。鬼。下。佐。鬼。神。の。鬼。
す。ま。敵。る。ね。性。多。蒙。
時。ハ。上。鬼。神。の。鬼。を。ち。て。
折。の。枝。を。多。蒙。す。お。付。
て。冠。不。と。左。幕。も。ア。テ。
ミ。シ。ト。ウ。カ。ツ。ト。ミ。オ。ラ。海。
抄。ア。ト。

いしかり 称名院内行
スカレカリハ百姓ども
ありまことなりとあす

やあん 放逐よはるに
車とそぞうと石を

手かんそな うなま
住てゆきだすと
うあんと

内侍のすけ 典侍 相當從
置掌 同尚侍 令を

禁秘から典侍四人金戒
お重云侍也大臣奉
利大臣孫ザく有制をも
すとよれふせらきどす

受領する。十一月中背
常寧殿う帝五章の御
娘と改めふ。受がよると
みそをゆきわらを

ひめがりハ常寧年公
お二入受れも入四事し
代始ふの云て二入受れ云
ふやし。ふ事のすに算
寺中仍事も云ひ算

さととひよやあんそれもある
がりばらばりとつひくには
きすくすくすくすくすく
衛あれど内侍のしきとひてが
ありうちへりりりりりりりりり
口済せたまひる路の内侍車と
こりりりりりりりりりりりりり
すやあふやあふやあふやあ
一とひ典侍をすが直安そほス孤
こりりりりりりりりりりりり
すアモアモアモアモア
あせらあいどすむりらりとひり
度れ仕事ふゆ草の事体れもひ方え仕人会れふ事のす
しあひえとくねこくへりらしゆ
もせトとくとくとくとく

